

様式4

令和7年度 学校運営協議会評価報告書1

鳥取県立白兔養護学校

学校長 原 康浩

評 価 日	令和7年11月14日（金）	
評 価・提 言		学校の所見・改善策
<p>（1）学校自己評価(中間評価)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価なので、厳しめの評価になっている。 各項目、課題が見つかったので、後半で評価が上がってくると思う。 ・ ICT 活用について、障がいの特性に合わせて伝えていくことは大変な部分があると思う。全部を伝えるのは難しいと思うので、どの部分を活用するのかを話し合われるといいと思った。 ・ 地域との絆、情報共有がキーワードと思った。パソコンで情報共有という話があったが、先生方も ICT を活用することで情報共有の改善にもつながると思った。負担軽減や、情報共有のスムーズさにつながるといった。たまたま、末恒小の卒業生に出会った時、交流していたことを覚えていて「白兔は近い存在に感じている」と言っておられた。近しく感じてもらっているので、続けていくこと大切と思った。 ・ 先生方がとても準備をしておられるのを目の当たりにしているので、評価をもっと上げてもいいと思った。地域でお手伝いができることがあればと思い参加させてもらっている。交流も続けているが、末恒地域は障がい者施設も多い地域。地域の子どもたちもよく知っている。分け隔てなく接して育っていると思っている。小さいときから関わりをもっていたことを覚えていて嬉しく感じる。 ・ P D C A でしっかりされている。 感染予防はしっかりするのは大切だが、不安をあおる面もあるかもしれない。関係するバスだけ送るなどの工夫も必要と思う。 ・ 地震津波の避難訓練について、ここは海拔がほとんどないので、いち早く子どもを高台に避難させない 		<p>⇒評価が上がっていくよう課題に取り組んでいく。</p> <p>⇒実態に応じた活用方法を検討する。</p> <p>⇒これからも本校児童生徒はもちろんのこと、地域の子どもたちにとっても充実した交流にしていきたい。</p> <p>⇒検討する。</p>

<p>といけない。そういうところを開拓して、避難できるようにした方がいいのではないか。大学の研究にも出ている。日本海側も地震はある。明治時代に津波等もあった。早く逃げる指導をした方がいい。</p> <p>地域でも津波一本で訓練している。</p> <p>⇒津波は、鳥取市のハザードマップは学校まで来ないようになっている（別の委員）</p> <p>⇒北海道では予定されていた避難経路で津波にさらわれた。マップも見直す必要がある。避難場所を考えないといけない。とにかく高台が良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部の生徒にとって、進路指導は非常に重要。教職員一人ひとりが進路の手引きを読むとあるが、それを読まれたうえで、何が足りないのかが心配になる。 <p>⇒具体的な研修内容は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当の先生が進められるよう、一層の努力をお願いする。 <p>（２）「地域社会とのつながり」年間計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく活動されているので、子どもたちに成果が表れるように、引き続き頑張ってもらいたい。 <p>（３）「白兎のご縁プロジェクト」について</p> <p>＜スタンプラリー＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白兎地域周辺の魅力創造会議をしている。白兎の丘から、かわらけ（粘土でできた小皿）を飛ばそうというアイデアが出てきた。養護学校にそのアイデアを出してもらったりした。連携を取らせてもらえてありがたい。こうして、学校のブランディング、名前を広めていくことが、活動の参考になっている。白兎地域を広めたい。 	<p>⇒再度専門機関に確認する。</p> <p>⇒（高主事）手引きに書いてあることを実践に生かすところで不安感が大きいということなので、一人ひとりのベースアップを進めていきたい。進路先によって進め方が違うところの理解を進めないといけない。単一障がい学級と重複障がい学級によっても進め方が違っている。それぞれがお互いを知り、ベースアップを図っていきたい。来年どのクラスを担当するかはわからない。みんなが同じように説明できるようにしたい。</p> <p>⇒卒業生の事例をもとに、手続きの学習をする。実習中に事業所を回る。</p> <p>⇒引き続き、計画した活動を進めていく。</p> <p>⇒引き続き、連携を図り活動を進めていく。</p>
---	---

<p><地引き綱></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地引き綱は、天候が悪く仕方なかった。来年やるのであれば、10月までに行うのが妥当だと思う。地域のイベントに入れてもらって、参加するという方法をとってもらえばと思う。 ・実施時期の検討と予備日の設定で何とか実現させてほしい。 ・地引き綱は毎年しているか 予算はどれくらい ・全国障害者芸術文化祭で、白兔卒業生が作った「あなたといっしょにうたいたい」をテーマソングにした。何かの折に広めていただきたい。 	<p>⇒校長：今年度は10万円。</p> <p>⇒校長：今年度は予算をとった。来年度は予算がつかないと難しいかもしれない。ただ、クラウドファンディング等でやりたい思いはある。みんなが残念がっているので、何とか実現したい。</p>
---	--